

第 67 回「山形県内企業の景気動向調査」確報

(令和 3 年 5 月調査)

～先行きは慎重な見通しが続くものの、
景況感は持ち直しの動き～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲11.0（前回調査比 26.2 ポイント上昇）と 3 期連続で改善した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」はいずれも改善し、「人員・人手」は小幅ながらプラス幅が拡大した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が 2.3（前回調査比 9.9 ポイント上昇）、製造業が▲10.3（前回調査比 12.6 ポイント上昇）、卸・小売業が▲12.3（前回調査比 18.9 ポイント上昇）、サービス業が▲22.2（前回調査比 33.7 ポイント上昇）と、すべての業種で改善となり、建設業は 7 期ぶりにプラスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲13.1（前回調査比 23.6 ポイント上昇）、村山北部が▲9.5（前回調査比 38.4 ポイント上昇）、最上が▲17.5（前回調査比 12.5 ポイント上昇）、置賜が▲20.7（前回調査比 28.4 ポイント上昇）、庄内田川が 2.7（前回調査比 24.0 ポイント上昇）、庄内飽海が▲12.3（前回調査比 30.6 ポイント上昇）と、すべての地域で改善となり、庄内田川はプラスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.2（今回調査比 5.2 ポイント下落）と 悪化の見込みとなっている。

【特別調査】

- **夏季ボーナスの支給動向**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 53.5%と、前年に比べ 8.5 ポイント上昇し、再び 5 割を上回った。
- **春季以降の賃金改定動向**について尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」）は、全業種で 45.0%と前年に比べて 4.8 ポイント上昇し、4 割台となった。
- **新型コロナウイルス感染症の事業への影響**について、事業活動全体における平常時（コロナ禍前）の経営状況を 100 とした場合の今年度の業績見通しをたずねたところ、全業種でみると「80～100」が 58.7%と最も多く、次いで「50～79」が 22.2%となっている

令和 3 年 6 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I. 県内企業の業況	1
1. 概況	1
2. 業種別の動向	2
(1) 業種別の概況	2
(2) 業種別 D I 値の動向	3
① 建設業	3
② 製造業	5
③ 卸・小売業	7
④ サービス業	9
3. 地域別の動向	11
(1) 地域別の概況	11
(2) 地域別 D I 値の動向	12
① 村山南部	12
② 村山北部	13
③ 最 上	14
④ 置 賜	15
⑤ 庄内田川	16
⑥ 庄内飽海	17
II. 景気の天気予報図	18
III. 特別調査	19
1. 夏季ボーナスについて	19
(1) 支給予定動向	19
(2) 支給予定額	21
2. 春季以降の賃金改定動向について	23
3. 新型コロナウイルス感染症の事業への影響について	24
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	25
<参考資料 II : 調査の概要>	25

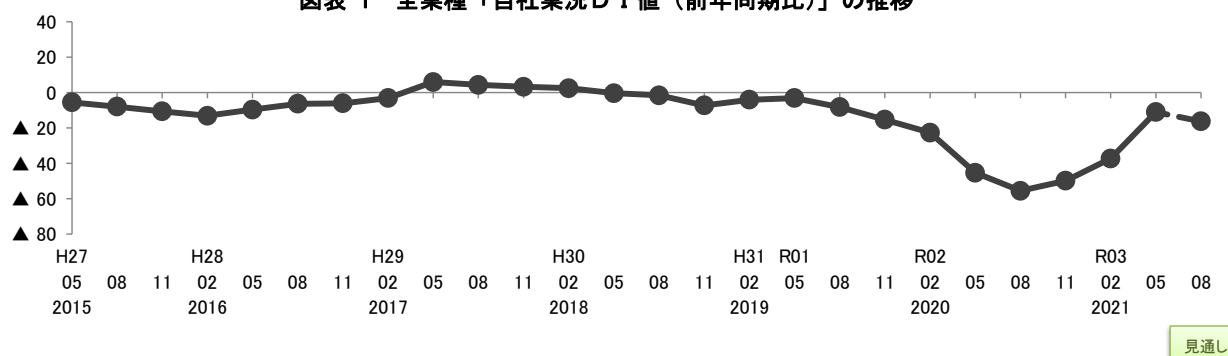
I. 県内企業の業況

1. 概況

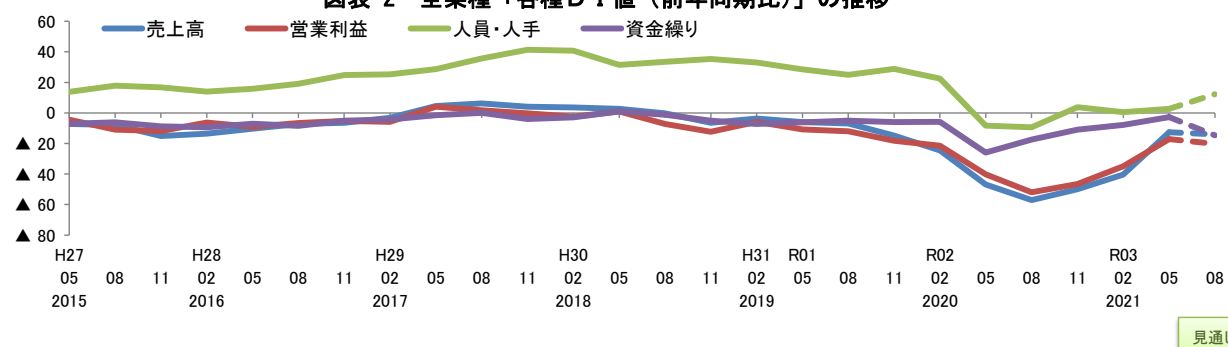
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲11.0（前回調査比 26.2 ポイント上昇）と 3 期連続で改善した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」はいずれも改善し、「人員・人手」は小幅ながらプラス幅が拡大した。

先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.2（今回調査比 5.2 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。新型コロナウイルス感染症の影響から先行きは慎重な見通しが続くものの、景況感には持ち直しの動きがみられる。

図表 1 全業種「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 2 全業種「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 02. 05 (n=433)	▲ 45.3	(▲ 22.7)	▲ 31.8	▲ 46.8	▲ 40.2	▲ 8.3	▲ 25.9
R 02. 08 (n=413)	▲ 55.5	(▲ 10.2)	▲ 67.2	▲ 57.1	▲ 52.0	▲ 9.4	▲ 17.4
R 02. 11 (n=408)	▲ 49.8	(5.7)	▲ 50.6	▲ 50.0	▲ 46.6	3.7	▲ 11.0
R 03. 02 (n=397)	▲ 37.2	(12.6)	▲ 28.7	▲ 40.3	▲ 35.0	0.5	▲ 7.8
R 03. 05 (n=409)	▲ 11.0	(26.2)	▲ 39.6	▲ 12.7	▲ 17.1	2.7	▲ 2.7
前回調査比	-	-	-	(27.6)	(17.9)	(2.2)	(5.1)
先行き見通し	▲ 16.2	-	-	▲ 14.0	▲ 20.3	12.2	▲ 14.6
今回調査比	(▲ 5.2)	-	-	(▲ 1.3)	(▲ 3.2)	(9.5)	(▲ 11.9)

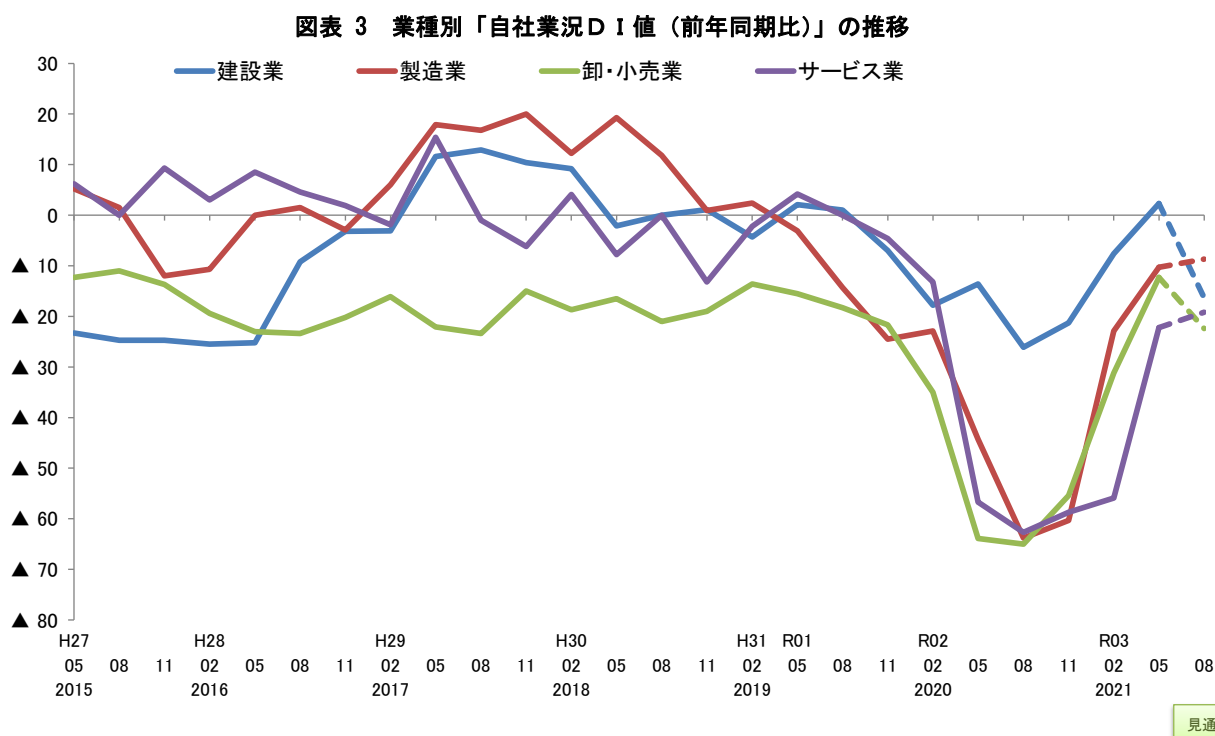
※「売上高」D I 値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、建設業が2.3（前回調査比9.9ポイント上昇）、製造業が▲10.3（前回調査比12.6ポイント上昇）、卸・小売業が▲12.3（前回調査比18.9ポイント上昇）、サービス業が▲22.2（前回調査比33.7ポイント上昇）と、すべての業種で改善となり、建設業は7期ぶりにプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、建設業と卸・小売業で悪化、製造業とサービス業で改善の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 05 (n=433)	▲ 45. 3	▲ 13. 6	▲ 44. 3	▲ 63. 9	▲ 56. 7
R 02. 08 (n=413)	▲ 55. 5	▲ 26. 1	▲ 63. 8	▲ 65. 0	▲ 62. 7
R 02. 11 (n=408)	▲ 49. 8	▲ 21. 3	▲ 60. 3	▲ 55. 4	▲ 58. 7
R 03. 02 (n=397)	▲ 37. 2	▲ 7. 6	▲ 22. 9	▲ 31. 2	▲ 55. 9
R 03. 05 (n=409)	▲ 11. 0	2. 3	▲ 10. 3	▲ 12. 3	▲ 22. 2
前回調査比	(26. 2)	(9. 9)	(12. 6)	(18. 9)	(33. 7)
先行き見通し	▲ 16. 2	▲ 16. 3	▲ 8. 7	▲ 22. 4	▲ 19. 2
今回調査比	(▲ 5. 2)	(▲ 18. 6)	(1. 6)	(▲ 10. 1)	(3. 0)

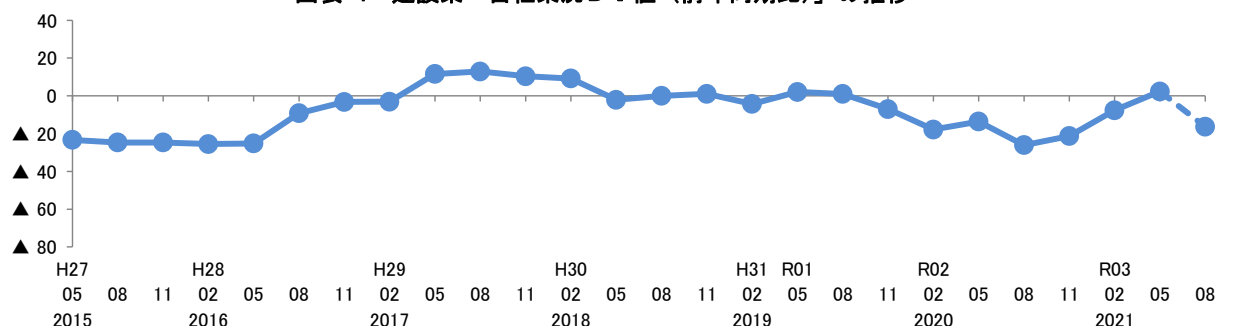
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 2.3（前回調査比 9.9 ポイント上昇）と、3 期連続で改善となり、7 期ぶりにプラスに転じた。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「営業利益」「手持工事高」「資金繰り」の 4 項目は改善し、「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が縮小した。各社のコメントから、民間の設備投資は足踏みが続いており、公共工事や災害復興工事などによって業況の維持に努めている状況がうかがえる。また、ウッドショックの影響から木材の高騰や工期の遅れを懸念する様子も見受けられる。

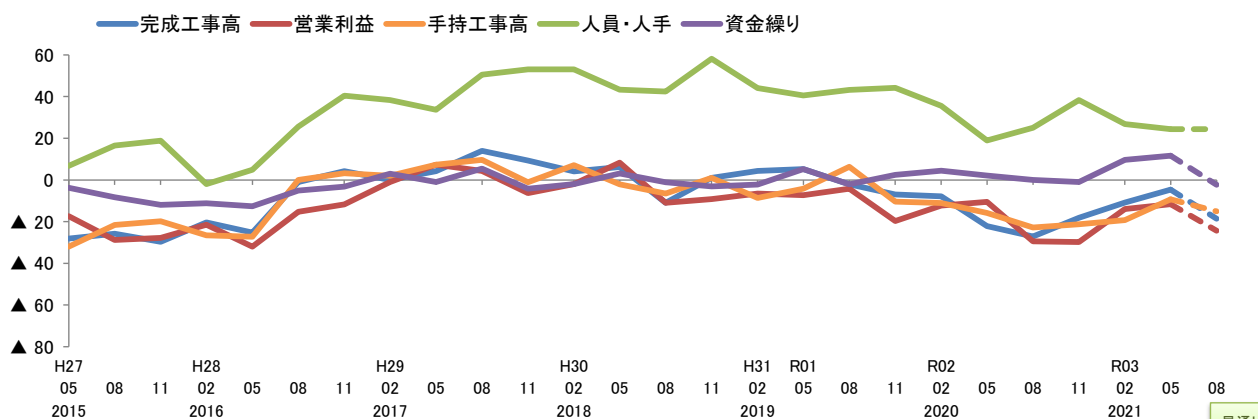
業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.3（今回調査比 18.6 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
		前回調査比	前回調査予測					
R 02. 05 (n=95)	▲ 13. 6	(4. 2)	▲ 31. 1	▲ 22. 1	▲ 10. 5	▲ 15. 8	18. 9	2. 1
R 02. 08 (n=92)	▲ 26. 1	(▲ 12. 5)	▲ 49. 5	▲ 27. 1	▲ 29. 4	▲ 22. 8	25. 0	0. 0
R 02. 11 (n=94)	▲ 21. 3	(4. 8)	▲ 36. 9	▲ 18. 1	▲ 29. 8	▲ 21. 3	38. 3	▲ 1. 0
R 03. 02 (n=93)	▲ 7. 6	(13. 7)	▲ 26. 6	▲ 10. 8	▲ 13. 9	▲ 19. 3	26. 8	9. 7
R 03. 05 (n=86)	2. 3	(9. 9)	▲ 37. 6	▲ 4. 6	▲ 11. 6	▲ 9. 3	24. 4	11. 6
前回調査比	-	-	-	(6. 2)	(2. 3)	(10. 0)	(▲ 2. 4)	(1. 9)
先行き見通し	▲ 16. 3	-	-	▲ 18. 6	▲ 24. 4	▲ 15. 1	24. 4	▲ 2. 3
今回調査比	(▲ 18. 6)	-	-	(▲ 14. 0)	(▲ 12. 8)	(▲ 5. 8)	(0. 0)	(▲ 13. 9)

業界の声

Q. 今期の業況について

- 民間投資が減少傾向にあるように感じられる。一部で価格競争になっており利益率の低下が心配される。(村山南)
- 業界ではウッドショックにより木材流通が滞り、入手困難な状態になってきた。今後仕入れは25%~40%値が上がることも想定しなければならない。(村山北)
- 新庄最上管内は災害復旧工事等あり、活発である。(最上)
- 個人住宅の営業活動が停滞ぎみ。特に、展示会の実施が予約者限定になるなど苦戦がみられる。公共工事においては、災害復旧等の工事が少ないことや東北中央道開通に伴い、大幅な減少がみられる。(置賜)
- 新型コロナの影響は現在のところない。公共工事については、上半期は順調に推移しているが下半期に薄くなる状況である。(庄内田川)
- 当地域は計画されている地方自治体独自の事業が減り、ここ数年では厳しい状況にある。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

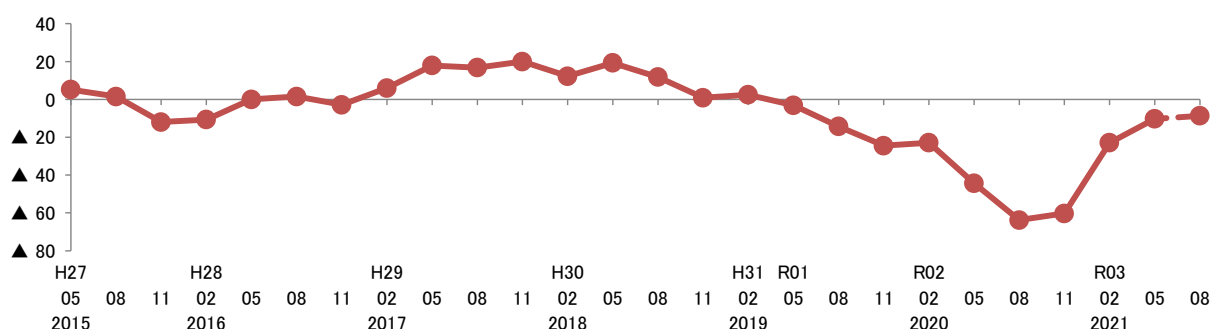
- 業務の効率化（不要な残業削減）によるコスト圧縮に努めている。(村山南)
- 依然住宅需要は旺盛で特に落ち込みはないようだが、ウッドショックは今後も続くことが予想され、流通が改善した場合でも価格高騰は避けられない状況だ。(村山北)
- 公共工事の完全週休2日が進んでおり、対応を検討中。(最上)
- 来期に向け建売住宅2棟を施工し、需要を促そうと計画している。動きが良く、この先の見通しとなればと思う。(置賜)
- 民間受注開拓と他県公共事業の下請けを模索している。(置賜)
- 有限な財源の中で公共工事の発注が増加するとは考えにくい、業界全体で作業量が少なくなっている、人員確保を行っていききたい。(庄内田川)
- 受注拡大のため経営コンサルタントの利用を計画している。(庄内飽海)

② 製造業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲10.3（前回調査比 12.6 ポイント上昇）と 3 期連続で改善した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「仕入価格」「資金繰り」の 4 項目が改善した一方、「在庫状況」は小幅ながら悪化した。「人員・人手」は下落し、マイナスに転じた。各社のコメントから、半導体や電子部品関連で持ち直しの動きがみられる。一方、食料品関連では、量販店やスーパー向けは堅調に推移しているものの、飲食店や土産品向けでは厳しい状況が続いている。

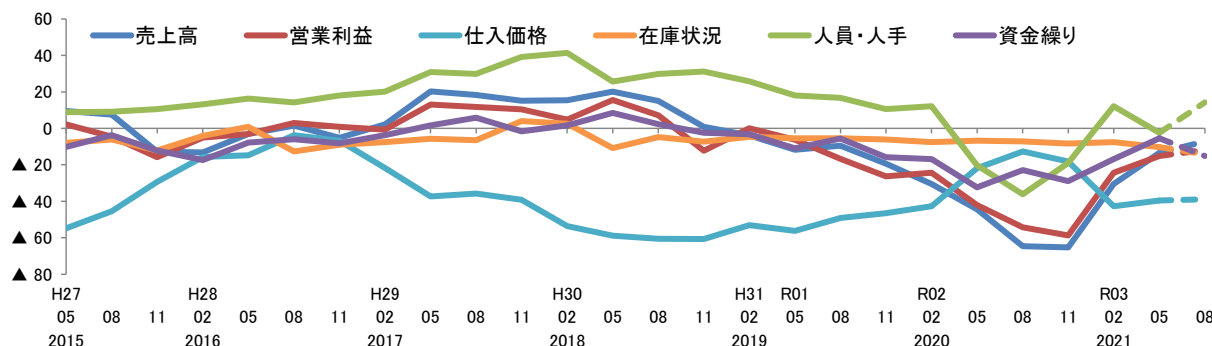
業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲8.7（今回調査比 1.6 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 7 製造業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業 利益	仕入 価格	在庫 状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 02. 05 (n=133)	▲ 44. 3	（▲ 21. 4）	▲ 29. 0	▲ 44. 4	▲ 42. 1	▲ 21. 8	▲ 6. 8	▲ 20. 3	▲ 32. 4
R 02. 08 (n=127)	▲ 63. 8	（▲ 19. 5）	▲ 62. 4	▲ 64. 6	▲ 54. 3	▲ 12. 6	▲ 7. 1	▲ 36. 2	▲ 22. 9
R 02. 11 (n=121)	▲ 60. 3	（3. 5）	▲ 48. 8	▲ 65. 3	▲ 58. 7	▲ 18. 2	▲ 8. 3	▲ 19. 0	▲ 29. 0
R 03. 02 (n=118)	▲ 22. 9	（37. 4）	▲ 26. 4	▲ 30. 5	▲ 24. 4	▲ 42. 7	▲ 7. 6	12. 2	▲ 16. 8
R 03. 05 (n=126)	▲ 10. 3	（12. 6）	▲ 29. 0	▲ 13. 5	▲ 15. 1	▲ 39. 6	▲ 10. 3	▲ 2. 4	▲ 5. 5
前回調査比	－	－	－	（17. 0）	（9. 3）	（3. 1）	（▲ 2. 7）	（▲ 14. 6）	（11. 3）
先行き見通し	▲ 8. 7	－	－	▲ 7. 2	▲ 11. 9	▲ 38. 9	▲ 14. 3	14. 2	▲ 15. 1
今回調査比	（1. 6）	－	－	（6. 3）	（3. 2）	（0. 7）	（▲ 4. 0）	（16. 6）	（▲ 9. 6）

Q. 今期の業況について

業界の声

- 弊社が属する菓子業界は新型コロナ禍における巣ごもり需要により、比較的好調を維持している。(村山南)
- 半導体業界は需要が非常に強く、生産対応に苦慮するほどのオーダーが来ている。半導体製造装置の引き合いも多くなっており、コロナ禍で凍結された設備投資の動きが活発になってきている。(村山北)
- コロナの影響で業務用食品は相当厳しい状況にある。コロナが終息しない限り回復する見込みはない。また、中国産原料も中国国内の物価上昇の影響により値上げとなっている。(最上)
- コロナ禍の影響はいまだ続いている。それに対して原材料の高騰もあり、状況は厳しい。(置賜)
- 外食、宿泊産業及びその周辺産業はまだまだ苦境。電気機械産業は伸びているが、原材料の不足、値上がりが懸念される。(庄内田川)
- コロナ感染拡大の影響は民間設備投資の見直し、中止などへと波及しており、売り上げ・利益ともに大きな影響を受けている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

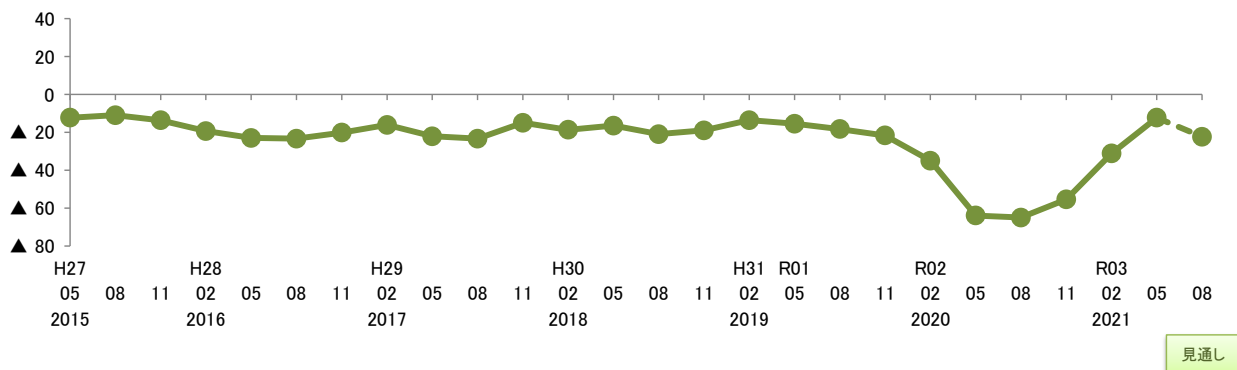
- 海上運賃の上昇や東南アジアの人件費アップのため、売り上げは伸びても利益は少ない。(村山南)
- 新規販売先の開拓をできることから続けている。製造作業の省力化自動化を進め、若い世代の活用を図る。(村山北)
- パソコン関連の需要の伸びは一巡するが、非接触関連で機器類の伸びと、今後自動運転車向け電子部品の利用や 5G・IoT・AI でのデータセンターニーズも見込まれるため、比較的明るい。(最上)
- 今後の人手不足に備えて会社の知名度アップを目的とした動画配信などを積極的に進めている。(置賜)
- セントラルとサテライトに分け業務の効率化を図る(人手を多用しない方法・未経験者でも対応できる手法)。(庄内田川)
- 業界が変革期を迎えており、脱炭素、無人化、省人化、杭の大径化、新たな工法開発等の設備投資の必要性に迫られている。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

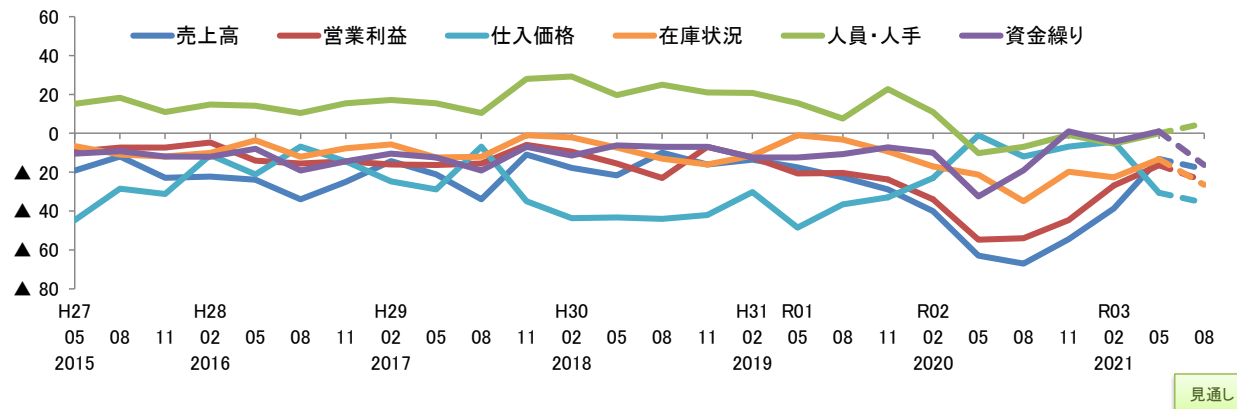
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は▲12.3（前回調査比 18.9 ポイント上昇）と３期連続で改善となった。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「在庫状況」「資金繰り」の４項目が改善となり、「資金繰り」はＤＩ値がプラスに転じた一方、「仕入価格」は大幅な悪化となった。「人員・人手」は２期ぶりにマイナス幅が縮小した。各社のコメントからは、回復の動きもみられるものの、宿泊業向けにおいて酒類を中心に依然として落ち込みが続いている状況がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲22.4（今回調査比 10.1 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業 利益	仕入 価格	在庫 状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 02.05（n=108）	▲ 63.9	（▲ 28.9）	▲ 39.0	▲ 62.9	▲ 54.7	▲ 1.0	▲ 21.3	▲ 10.2	▲ 32.4
R 02.08（n=100）	▲ 65.0	（▲ 1.1）	▲ 79.6	▲ 67.0	▲ 54.0	▲ 12.0	▲ 35.0	▲ 7.0	▲ 19.0
R 02.11（n=101）	▲ 55.4	（9.6）	▲ 60.0	▲ 54.5	▲ 44.6	▲ 6.9	▲ 19.8	▲ 0.9	1.0
R 03.02（n=93）	▲ 31.2	（24.2）	▲ 31.7	▲ 38.7	▲ 26.9	▲ 4.3	▲ 22.6	▲ 5.4	▲ 4.3
R 03.05（n=98）	▲ 12.3	（18.9）	▲ 37.6	▲ 13.2	▲ 16.4	▲ 30.6	▲ 13.3	0.0	1.0
前回調査比	－	－	－	（25.5）	（10.5）	（▲ 26.3）	（9.3）	（5.4）	（5.3）
先行き見通し	▲ 22.4	－	－	▲ 18.4	▲ 24.5	▲ 35.7	▲ 26.5	5.1	▲ 16.3
今回調査比	（▲ 10.1）	－	－	（▲ 5.2）	（▲ 8.1）	（▲ 5.1）	（▲ 13.2）	（5.1）	（▲ 17.3）

Q. 今期の業況について

業界の声

- 同じ製菓業界でも、インバウンドや土産物向けの製菓原料などは低迷している。外食向けも時短営業や休業の影響を受けており減少が続いている。(村山南)
- コロナ感染の先行き不安により、住宅購入や工事の延期などの傾向が出ている。(村山南)
- 石油業界は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う需要の落ち込みのみならず、2030 年のカーボンニュートラルによる需要の急減が間近に迫って来ている。(村山北)
- 地域経済全体が低迷しているように思う。今後が非常に不安でならない。(最上)
- コロナ感染症により業界全体の情報が入りにくくなっている。また、受発注業務もネットか通販になっているので、人との交流がめっきり減っている。(置賜)
- コロナのために、業務用先（飲食店、旅館業等）への販売が減少した。(庄内田川)
- 前年同期に比べて今年の 1～3 月期は、PAYPAY30%還元の影響で大幅に落ち込んだ。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

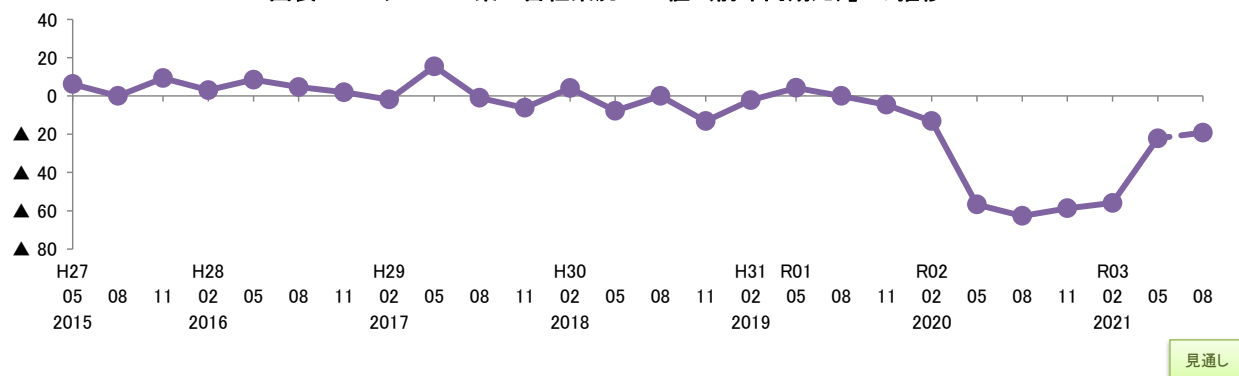
- Web による提案活動（セミナー）の質・量の向上、残業時間の短縮など生産性の向上に取り組む。(村山南)
- 新型コロナウイルスに感染しないように日々の業務で衛生管理を徹底している。先行きが不透明なために販売管理費を抑えた経営を考えている。(村山南)
- 今年度は年度初めからウッドショックが起きて木材の手配がつかない状態である。この状態が続くと先行きは非常に不透明な状況になる。(村山北)
- 海上コンテナ不足や航空便の減便などによりサプライチェーンが機能不全に陥ってしまい、発注した商品が充分に入荷しない状況が続いている。一部半年遅れなどが発生しており、欠品を発生させないような工夫が必要になっている。(置賜)
- 新型コロナにより、時計・宝飾業界のインターネット化が拡大している。(庄内田川)
- 地元販売は限界に来ており、今後はネット販売等に力を入れて売り上げを確保する予定でいる。(庄内飽海)

④ サービス業

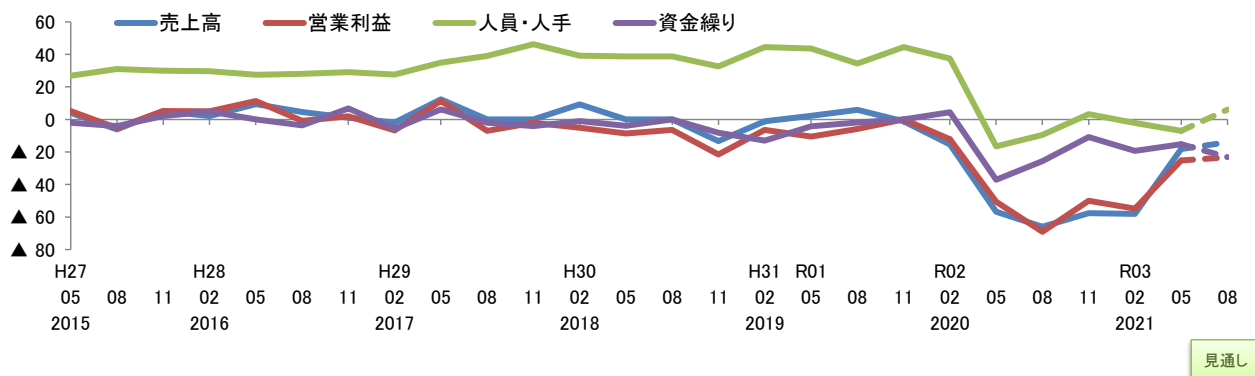
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲22.2（前回調査比 33.7 ポイント上昇）と大幅に改善した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の 3 項目が改善した。「人員・人手」は 2 期連続で下落し、マイナス幅が拡大した。各社のコメントからは、売り上げが戻りつつある企業もみられる一方、旅客自動車運送業や宿泊業などでは感染者の増加に伴う客足の減少や予約のキャンセルなどが続いており、先行きを不安視している現状がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲19.2（今回調査比 3.0 ポイント上昇）とさらなる改善が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業 利益	人員 人手	資金 繰り
		前回調査比	前回調査予測				
R 02. 05（n=97）	▲ 56. 7	（▲ 43. 5）	▲ 28. 6	▲ 56. 7	▲ 50. 6	▲ 16. 5	▲ 37. 1
R 02. 08（n=94）	▲ 62. 7	（▲ 6. 0）	▲ 77. 4	▲ 66. 0	▲ 69. 1	▲ 9. 5	▲ 25. 6
R 02. 11（n=92）	▲ 58. 7	（4. 0）	▲ 56. 4	▲ 57. 6	▲ 50. 0	3. 2	▲ 10. 9
R 03. 02（n=93）	▲ 55. 9	（2. 8）	▲ 30. 5	▲ 58. 1	▲ 54. 8	▲ 2. 2	▲ 19. 3
R 03. 05（n=99）	▲ 22. 2	（33. 7）	▲ 47. 3	▲ 18. 2	▲ 25. 2	▲ 7. 1	▲ 15. 2
前回調査比	－	－	－	（39. 9）	（29. 6）	（▲ 4. 9）	（4. 1）
先行き見通し	▲ 19. 2	－	－	▲ 14. 1	▲ 23. 3	6. 1	▲ 23. 2
今回調査比	（3. 0）	－	－	（4. 1）	（1. 9）	（13. 2）	（▲ 8. 0）

Q. 今期の業況について

業界の声

- 広告業として、食料品や生活必需品関連は影響が少ないが、イベント関係などは自粛により扱いが減少している。(村山南)
- 業界・地域間格差はあるが、最近の変異株のウイルス感染拡大により警戒感が増幅、商談や案件推進に影響が出ていることは否めない。そのような中で IT・IoT・AI 等に対する投資意欲は続いており受注・売り上げともに比較的安定に推移している。(村山南)
- 新型コロナウイルス感染症の影響による個人消費の伸び悩みから、住宅への着工等については停滞している。また、公共事業においても解体における発注見通しも現段階としては大型物件等がない状況にある。(村山北)
- 当社は賃貸アパート清掃が主流であり、コロナの影響もあって入退去者が多く発生したことにより、売り上げ増につながった。(置賜)
- コロナ感染者数の増加が報道されると宿泊予約のキャンセルも増加する。同時に、市街地など商業施設等の人出も減少が感じられる。(庄内田川)
- コンテナ、在来船（貨物船）共に中国の船腹確保により海上運賃が大幅に上昇し、輸出入をしている荷主において物流コストの負担増が問題となっている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- お客さまの少ない今の時期にしか出来ないこと、ハード面では客室の改装、ソフト面では社員研修等を実施し来るべきコロナ終息時に備えている。(村山南)
- 秋くらいから人の流れが出るものと思う。人の往来があればロードサービス等の作業も増えると思う。(村山北)
- リモートなどによって仕事のやり方を見直し、次のための新商品の開発をしている。また、HP のリニューアルによる新規需要の確保の推進を行っている。(最上)
- 当財務の見直しと売り上げを上げる工面を同時に行っている。(置賜)
- ワクチン接種が進み、コロナ感染者が減少するまでは厳しいと思う。(庄内田川)
- 今の状態からコロナ収束後の状態を見据えた営業体制の見直しが必要だと思う。具体的には、ホームページのリニューアル、web を使った営業体制の見直しを計画的に進めている。(庄内飽海)

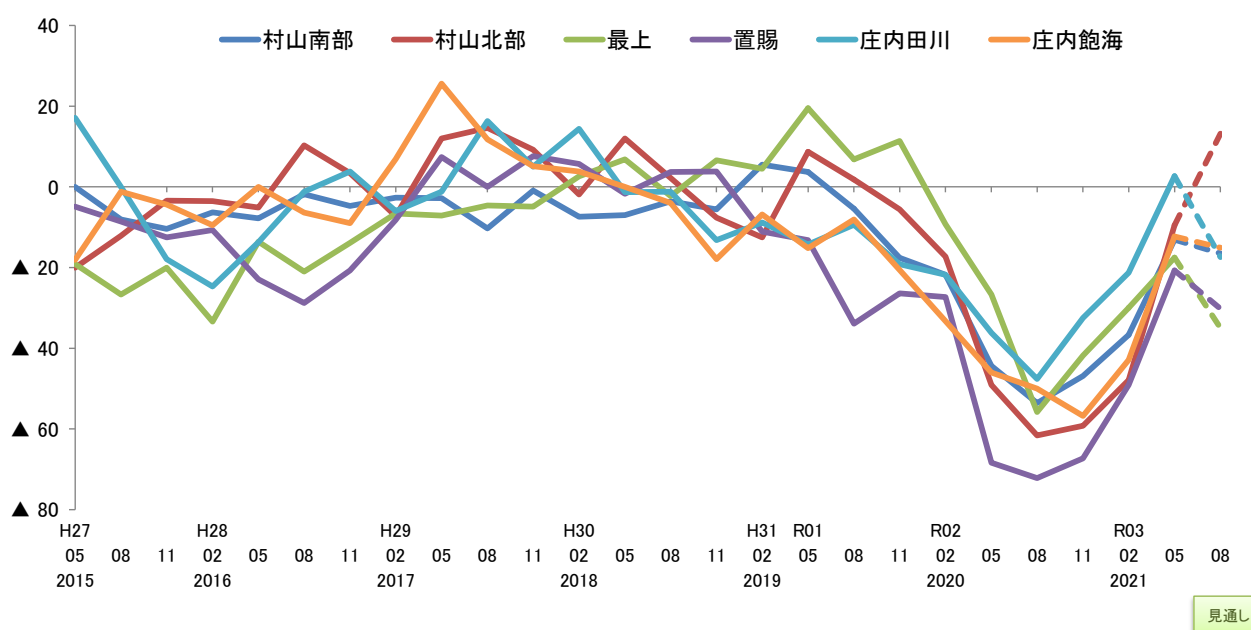
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲13.1（前回調査比 23.6 ポイント上昇）、村山北部が▲9.5（前回調査比 38.4 ポイント上昇）、最上が▲17.5（前回調査比 12.5 ポイント上昇）、置賜が▲20.7（前回調査比 28.4 ポイント上昇）、庄内田川が2.7（前回調査比 24.0 ポイント上昇）、庄内飽海が▲12.3（前回調査比 30.6 ポイント上昇）と、すべての地域で改善となり、庄内田川はプラスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、村山北部で改善、その他の5地域では悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 02. 05 (n=433)	▲ 45.3	▲ 44.4	▲ 49.1	▲ 26.7	▲ 68.4	▲ 36.2	▲ 46.0
R 02. 08 (n=413)	▲ 55.5	▲ 53.6	▲ 61.6	▲ 55.8	▲ 72.2	▲ 47.6	▲ 50.0
R 02. 11 (n=408)	▲ 49.8	▲ 46.9	▲ 59.2	▲ 41.8	▲ 67.3	▲ 32.5	▲ 56.8
R 03. 02 (n=397)	▲ 37.2	▲ 36.7	▲ 47.9	▲ 30.0	▲ 49.1	▲ 21.3	▲ 42.9
R 03. 05 (n=409)	▲ 11.0	▲ 13.1	▲ 9.5	▲ 17.5	▲ 20.7	2.7	▲ 12.3
前回調査比	(26.2)	(23.6)	(38.4)	(12.5)	(28.4)	(24.0)	(30.6)
先行き見通し	▲ 16.2	▲ 16.5	13.2	▲ 35.0	▲ 30.2	▲ 17.4	▲ 15.1
今回調査比	(▲ 5.2)	(▲ 3.4)	(22.7)	(▲ 17.5)	(▲ 9.5)	(▲ 20.1)	(▲ 2.8)

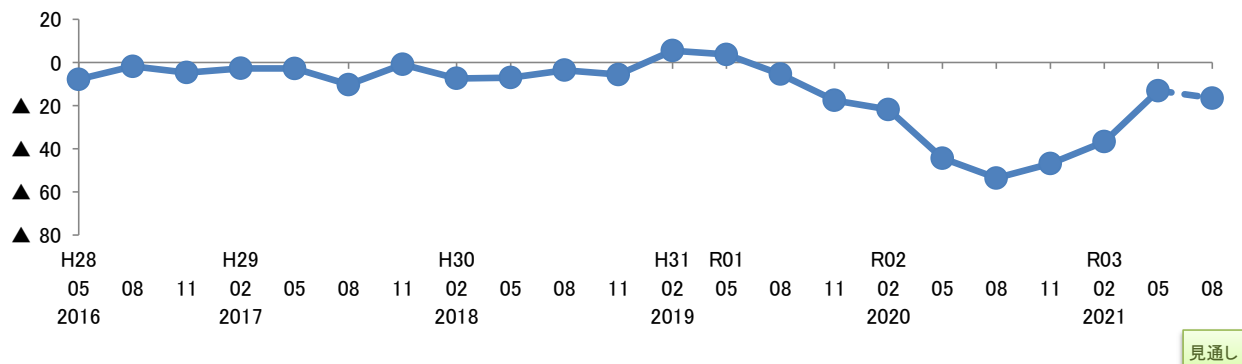
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

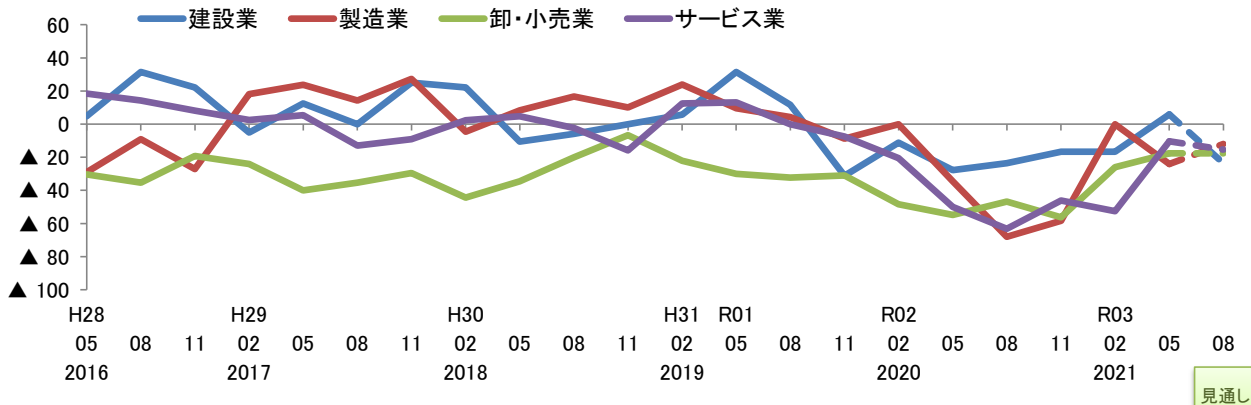
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲13.1（前回調査比 23.6 ポイント上昇）と 3 期連続で改善となった。業種別にみると、建設業、卸・小売業、サービス業で改善、製造業で大幅に悪化となっている。建設業は D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.5（今回調査比 3.4 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

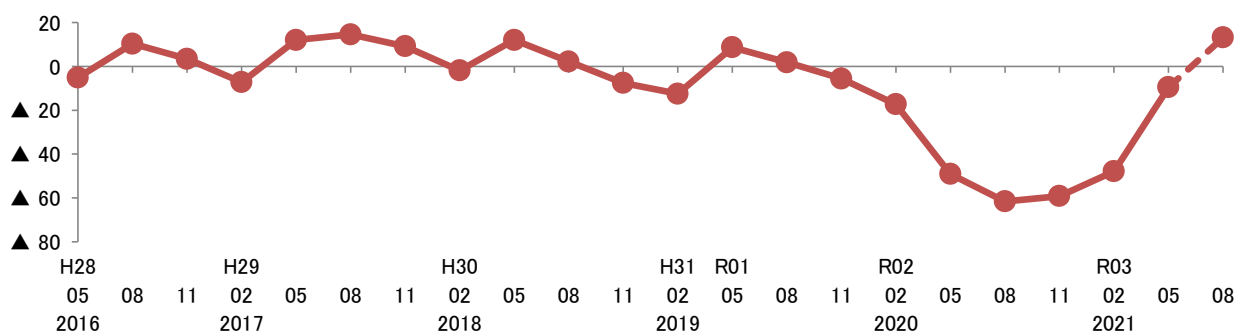
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 05 (n=115)	▲ 44. 4	(▲ 22. 6)	▲ 35. 6	▲ 27. 7	▲ 34. 6	▲ 54. 8	▲ 50. 0
R 02. 08 (n=110)	▲ 53. 6	(▲ 9. 2)	▲ 68. 7	▲ 23. 6	▲ 68. 0	▲ 46. 7	▲ 63. 2
R 02. 11 (n=113)	▲ 46. 9	(6. 7)	▲ 46. 3	▲ 16. 6	▲ 58. 4	▲ 56. 2	▲ 46. 2
R 03. 02 (n=109)	▲ 36. 7	(10. 2)	▲ 26. 5	▲ 16. 7	0. 0	▲ 26. 0	▲ 52. 5
R 03. 05 (n=115)	▲ 13. 1	(23. 6)	▲ 28. 5	5. 9	▲ 24. 0	▲ 17. 7	▲ 10. 3
前回調査比	-	-	-	(22. 6)	(▲ 24. 0)	(8. 3)	(42. 2)
先行き見通し	▲ 16. 5	-	-	▲ 23. 5	▲ 12. 0	▲ 17. 6	▲ 15. 4
今回調査比	(▲ 3. 4)	-	-	(▲ 29. 4)	(12. 0)	(0. 1)	(▲ 5. 1)

② 村山北部

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲9.5（前回調査比 38.4 ポイント上昇）と 3 期連続で改善となった。
業種別にみても、すべての業種で改善となっており、建設業は D I 値がプラスに転じた。

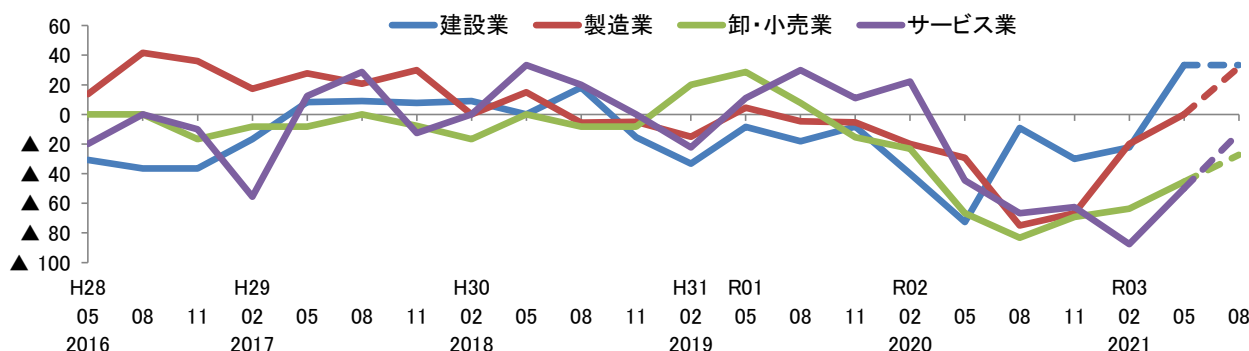
業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が 13.2（今回調査比 22.7 ポイント上昇）と大幅な改善が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 16 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

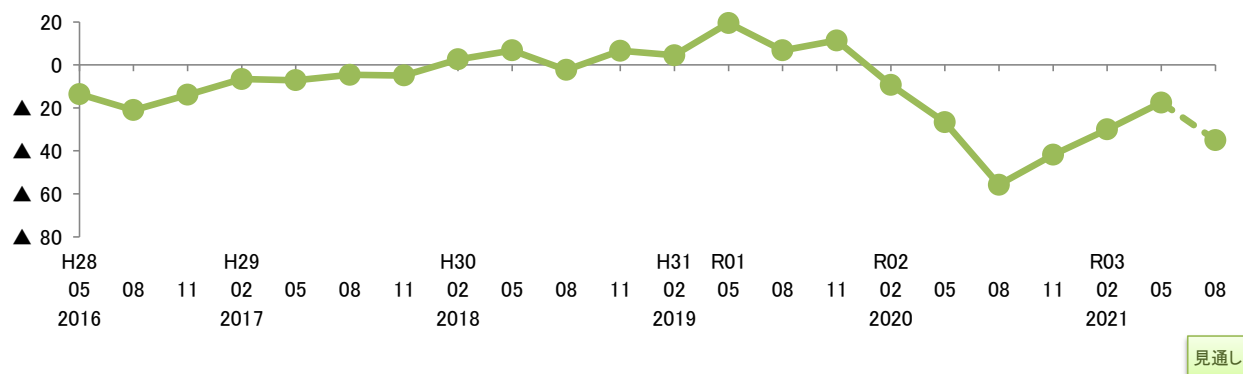
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 05 (n=59)	▲ 49.1	(▲ 31.8)	▲ 30.8	▲ 72.7	▲ 29.2	▲ 66.7	▲ 44.5
R 02. 08 (n=52)	▲ 61.6	(▲ 12.5)	▲ 66.1	▲ 9.1	▲ 75.0	▲ 83.3	▲ 66.7
R 02. 11 (n=49)	▲ 59.2	(2.4)	▲ 57.7	▲ 30.0	▲ 66.7	▲ 69.2	▲ 62.5
R 03. 02 (n=48)	▲ 47.9	(11.3)	▲ 30.7	▲ 22.2	▲ 20.0	▲ 63.6	▲ 87.5
R 03. 05 (n=53)	▲ 9.5	(38.4)	▲ 39.6	33.4	0.0	▲ 45.5	▲ 50.0
前回調査比	-	-	-	(55.6)	(20.0)	(18.1)	(37.5)
先行き見通し	13.2	-	-	33.4	31.9	▲ 27.3	▲ 12.5
今回調査比	(22.7)	-	-	(0.0)	(31.9)	(18.2)	(37.5)

③ 最 上

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲17.5（前回調査比 12.5 ポイント上昇）と 3 期連続で改善となった。
業種別にみると、建設業と製造業は悪化、卸・小売業とサービス業は大幅な改善となっている。

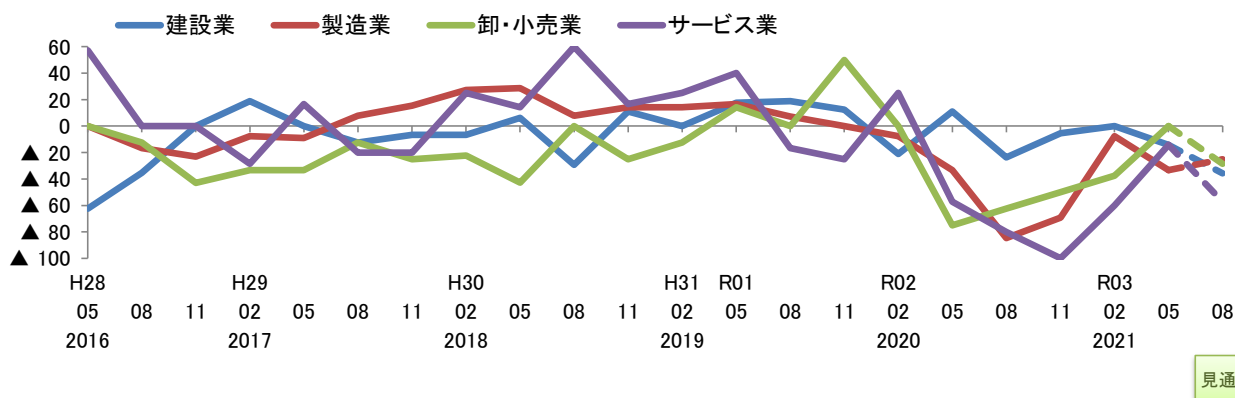
業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲35.0（今回調査比 17.5 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 17 最上「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 18 最上「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

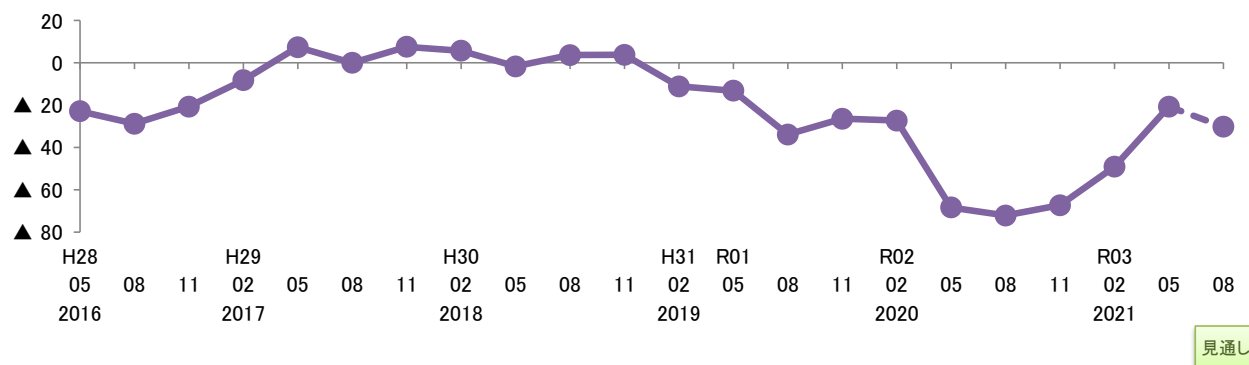
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 02. 05 (n=45)	▲ 26.7	(▲ 17.4)	▲ 27.9	11.1	▲ 33.4	▲ 75.0	▲ 57.1
R 02. 08 (n=43)	▲ 55.8	(▲ 29.1)	▲ 68.9	▲ 23.6	▲ 84.6	▲ 62.5	▲ 80.0
R 02. 11 (n=43)	▲ 41.8	(14.0)	▲ 39.5	▲ 5.5	▲ 69.2	▲ 50.0	▲ 100.0
R 03. 02 (n=40)	▲ 30.0	(11.8)	▲ 27.9	0.0	▲ 7.7	▲ 37.5	▲ 60.0
R 03. 05 (n=40)	▲ 17.5	(12.5)	▲ 40.0	▲ 14.3	▲ 33.3	0.0	▲ 14.3
前回調査比	-	-	-	(▲ 14.3)	(▲ 25.6)	(37.5)	(45.7)
先行き見通し	▲ 35.0	-	-	▲ 35.8	▲ 25.0	▲ 28.6	▲ 57.1
今回調査比	(▲ 17.5)	-	-	(▲ 21.5)	(8.3)	(▲ 28.6)	(▲ 42.8)

④ 置 賜

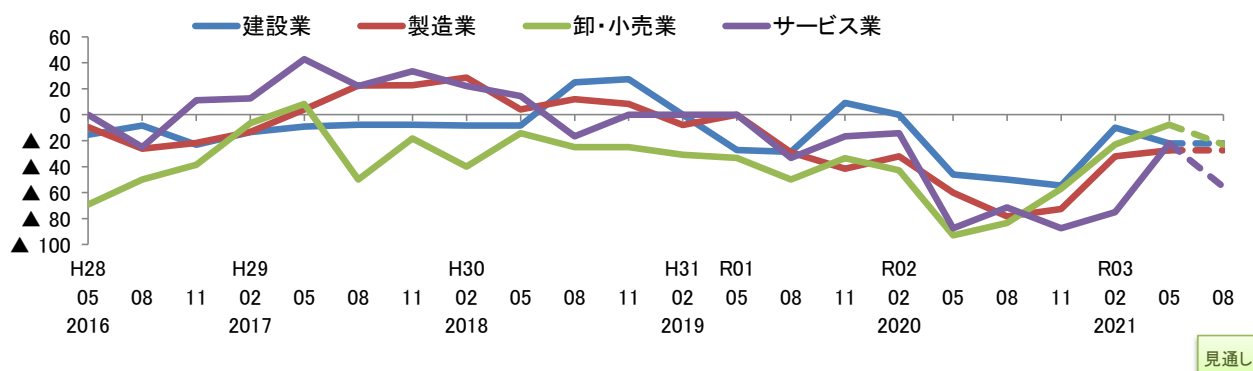
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲20.7（前回調査比 28.4 ポイント上昇）と 3 期連続で改善となった。業種別にみると、建設業で悪化となったものの、製造業、卸・小売業、サービス業で改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲30.2（今回調査比 9.5 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

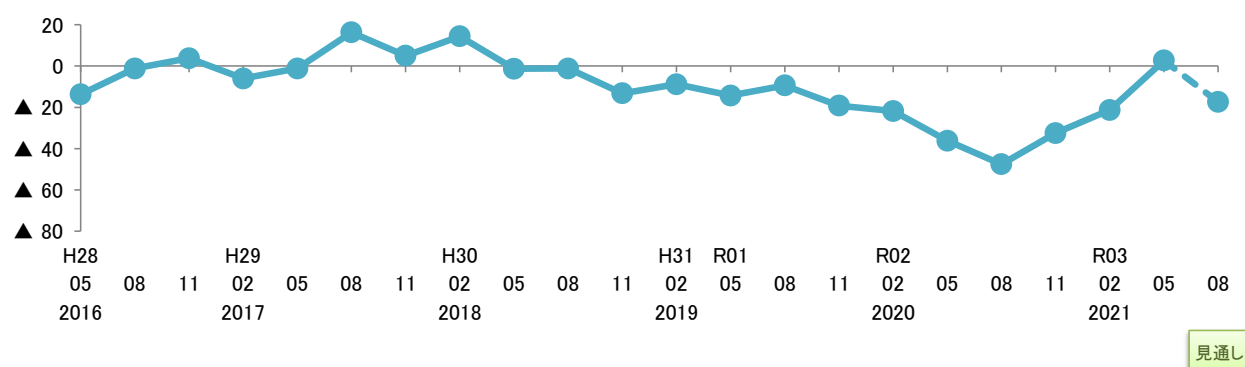
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 02. 05 (n=60)	▲ 68.4	(▲ 41.1)	▲ 47.2	▲ 46.1	▲ 60.0	▲ 92.9	▲ 87.5
R 02. 08 (n=54)	▲ 72.2	(▲ 3.8)	▲ 68.3	▲ 50.0	▲ 78.3	▲ 83.3	▲ 71.4
R 02. 11 (n=55)	▲ 67.3	(4.9)	▲ 48.1	▲ 54.5	▲ 72.7	▲ 57.1	▲ 87.5
R 03. 02 (n=55)	▲ 49.1	(18.2)	▲ 27.3	▲ 10.0	▲ 32.0	▲ 23.0	▲ 75.0
R 03. 05 (n=53)	▲ 20.7	(28.4)	▲ 54.5	▲ 22.2	▲ 27.3	▲ 7.7	▲ 22.2
前回調査比	-	-	-	(▲ 12.2)	(4.7)	(15.3)	(52.8)
先行き見通し	▲ 30.2	-	-	▲ 22.2	▲ 27.3	▲ 23.0	▲ 55.6
今回調査比	(▲ 9.5)	-	-	(0.0)	(0.0)	(▲ 15.3)	(▲ 33.4)

⑤ 庄内田川

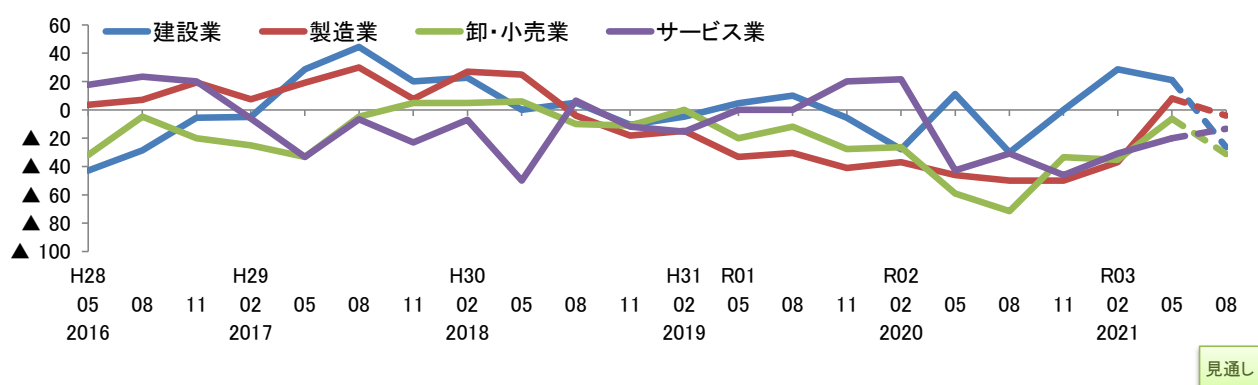
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 2.7（前回調査比 24.0 ポイント上昇）と 3 期連続で改善となり、プラスに転じた。業種別にみると、建設業で悪化したものの、製造業、卸・小売業、サービス業で改善となった。製造業では D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲17.4（今回調査 20.1 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

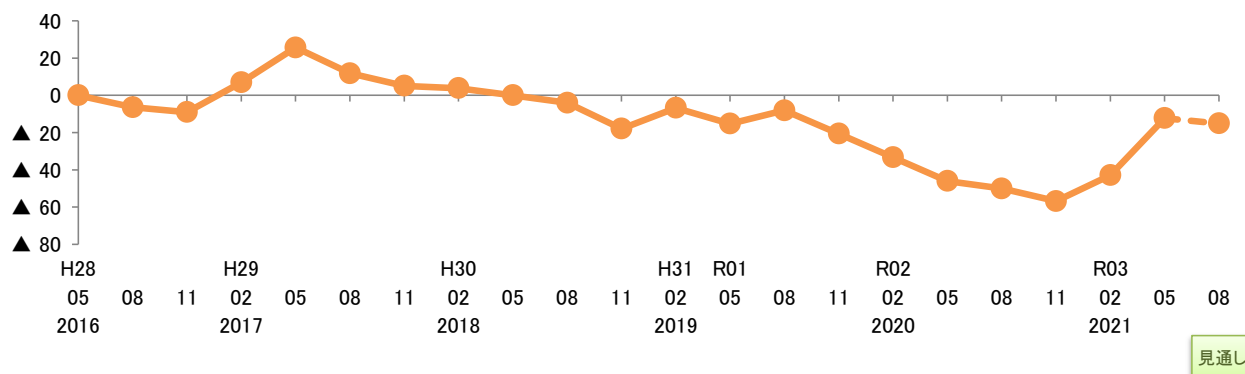
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 05 (n=80)	▲ 36.2	(▲ 14.4)	▲ 29.5	11.1	▲ 46.1	▲ 59.1	▲ 42.8
R 02. 08 (n=82)	▲ 47.6	(▲ 11.4)	▲ 63.7	▲ 30.0	▲ 50.0	▲ 71.5	▲ 30.8
R 02. 11 (n=74)	▲ 32.5	(15.1)	▲ 51.3	0.0	▲ 50.0	▲ 33.4	▲ 46.1
R 03. 02 (n=75)	▲ 21.3	(11.2)	▲ 22.9	28.6	▲ 37.0	▲ 35.3	▲ 30.8
R 03. 05 (n=75)	2.7	(24.0)	▲ 41.3	21.0	8.0	▲ 6.3	▲ 20.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 7.6)	(45.0)	(29.0)	(10.8)
先行き見通し	▲ 17.4	-	-	▲ 26.3	▲ 4.0	▲ 31.2	▲ 13.3
今回調査比	(▲ 20.1)	-	-	(▲ 47.3)	(▲ 12.0)	(▲ 24.9)	(6.7)

⑥ 庄内飽海

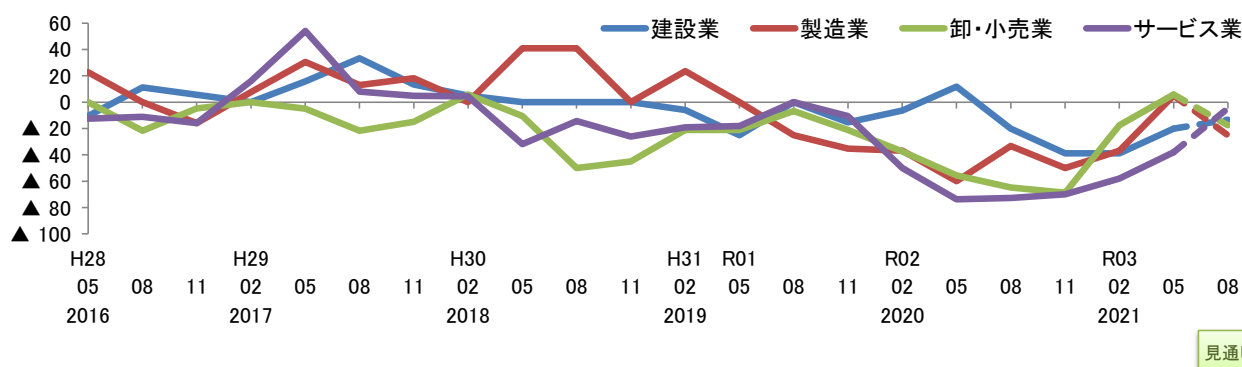
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲12.3（前回調査比 30.6 ポイント上昇）と大幅な改善となった。業種別にみても、すべての業種で大幅に改善しており、製造業と卸・小売業では D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲15.1（今回調査比 2.8 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 05 (n=74)	▲ 46.0	(▲ 12.7)	▲ 18.9	11.8	▲ 60.0	▲ 55.5	▲ 73.7
R 02. 08 (n=72)	▲ 50.0	(▲ 4.0)	▲ 67.5	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 64.7	▲ 72.7
R 02. 11 (n=74)	▲ 56.8	(▲ 6.8)	▲ 59.7	▲ 38.8	▲ 50.0	▲ 68.8	▲ 70.0
R 03. 02 (n=70)	▲ 42.9	(13.9)	▲ 37.8	▲ 38.8	▲ 36.9	▲ 17.6	▲ 57.9
R 03. 05 (n=73)	▲ 12.3	(30.6)	▲ 42.8	▲ 20.0	5.0	5.9	▲ 38.1
前回調査比	-	-	-	(18.8)	(41.9)	(23.5)	(19.8)
先行き見通し	▲ 15.1	-	-	▲ 13.3	▲ 25.0	▲ 17.6	▲ 4.8
今回調査比	(▲ 2.8)	-	-	(6.7)	(▲ 30.0)	(▲ 23.5)	(33.3)

II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

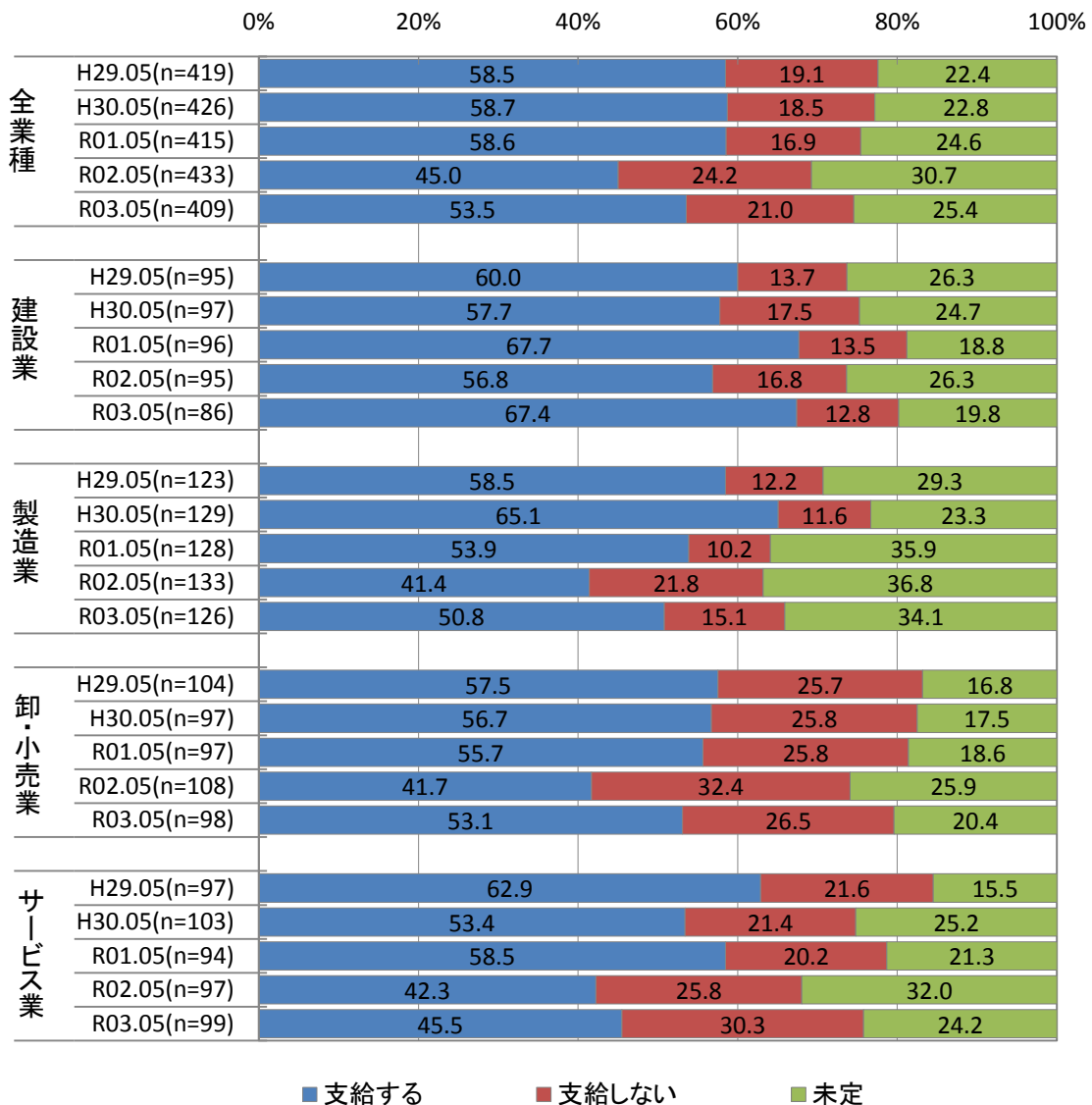
1. 夏季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

夏季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 53.5% と、前年に比べ 8.5 ポイント上昇し、再び 5 割を上回った。

業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 67.4%（前年比 10.6 ポイント上昇）、製造業が 50.8%（前年比 9.4 ポイント上昇）、卸・小売業が 53.1%（前年比 11.4 ポイント上昇）、サービス業が 45.5%（前年比 3.2 ポイント上昇）となった。

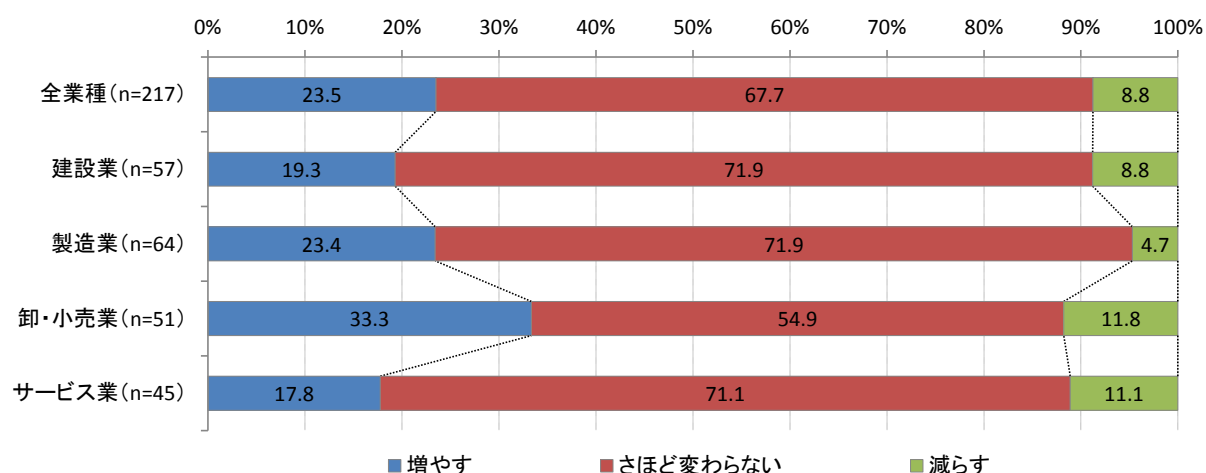
図表 25 業種別 夏季ボーナス支給動向の推移



今季「支給する」と回答した企業に対し、前年夏季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業が 67.7%と最も多く、次いで「増やす」が 23.5%、「減らす」は 8.8%となった。

業種別にみても、すべての業種で「さほど変わらない」が最も多くなっており、「増やす」と回答した企業では卸・小売業が 33.3%と、他の 3 業種に比べて高くなっている。なお、「減らす」と回答した企業では製造業が 4.7%と低くなっている。

図表 26 業種別 夏季ボーナスを支給する企業の方針

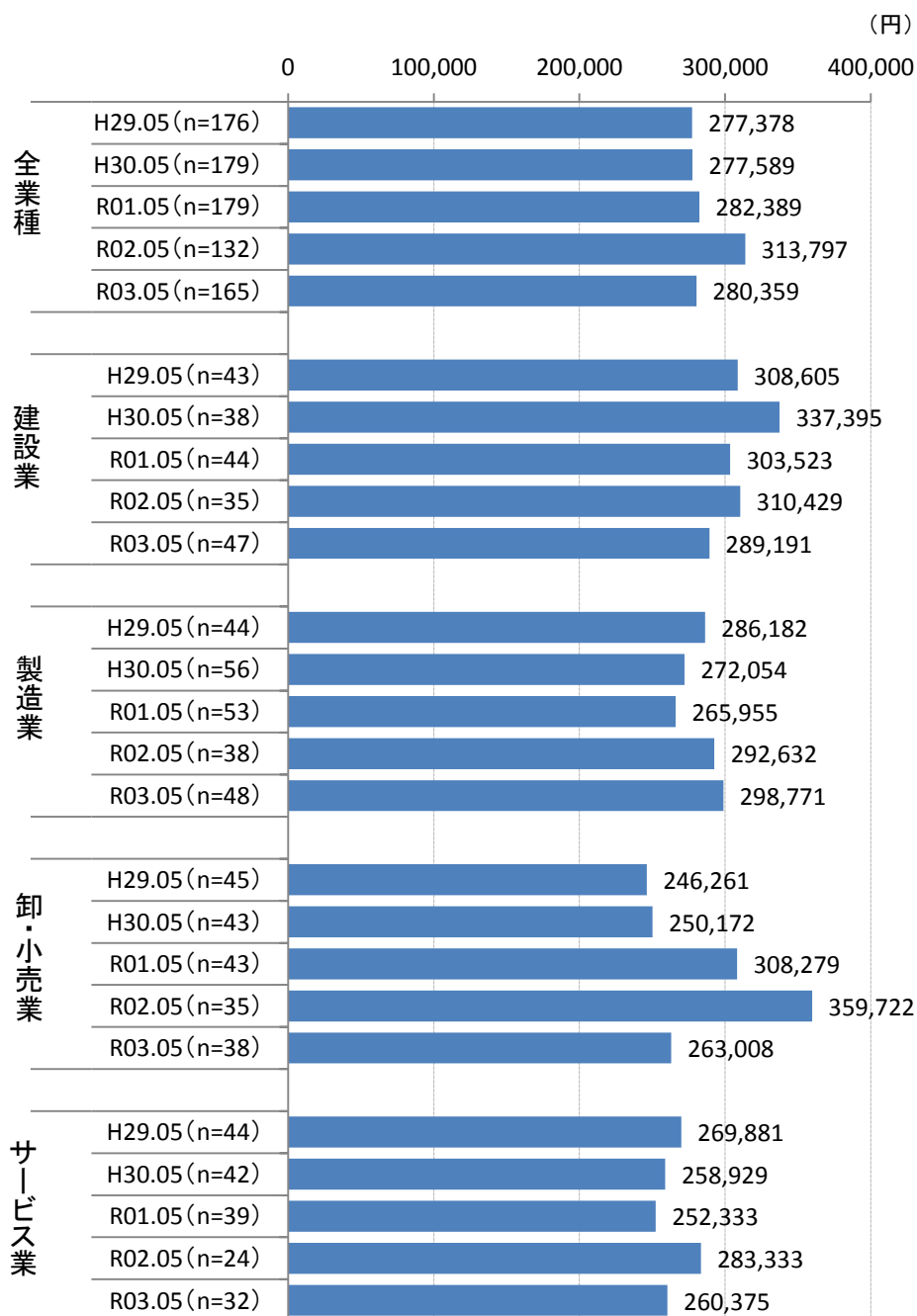


(2) 支給予定額

夏季ボーナスの支給予定額は、全業種平均で 280,359 円となり、前年より減少となった。

業種別にみると、製造業で増加（前年比 0.6 万円増加）、建設業で前年比 2.1 万円減少、卸・小売業で 9.7 万円減少、サービス業で 2.3 万円減少と、3 業種で減少となった。

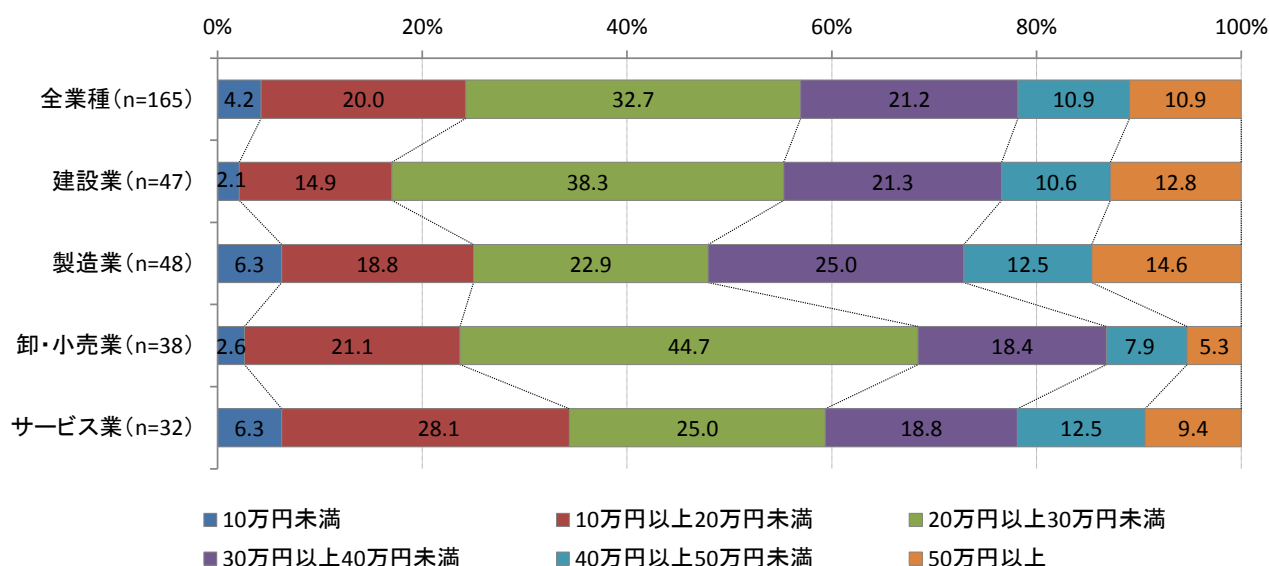
図表 27 夏季ボーナスの平均支給予定額の推移



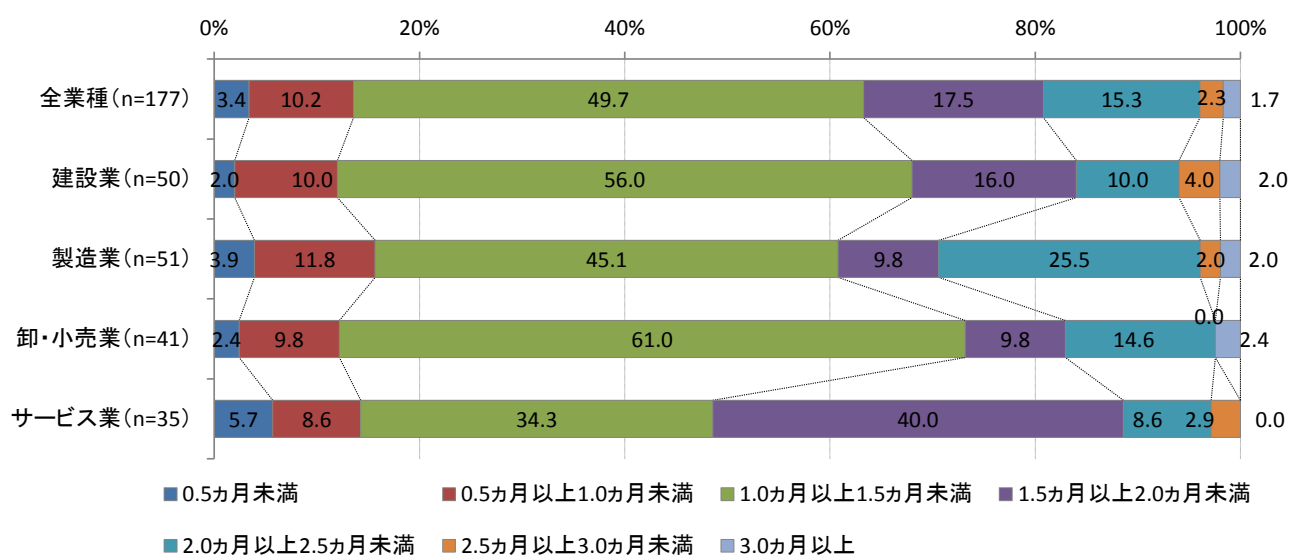
平均支給予定額は、全業種でみると「20 万円以上 30 万円未満」が最も多く、32.7%となっている。

平均支給予定月数は、全業種でみると「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」が最も多く、49.7%となっている。

図表 28 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定額



図表 29 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定月数

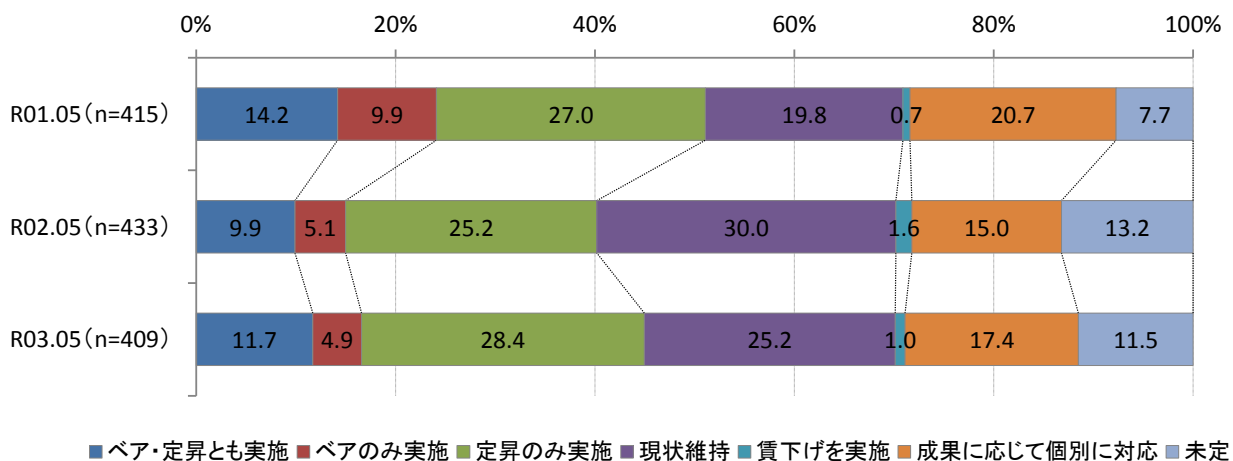


2. 春季以降の賃金改定動向について

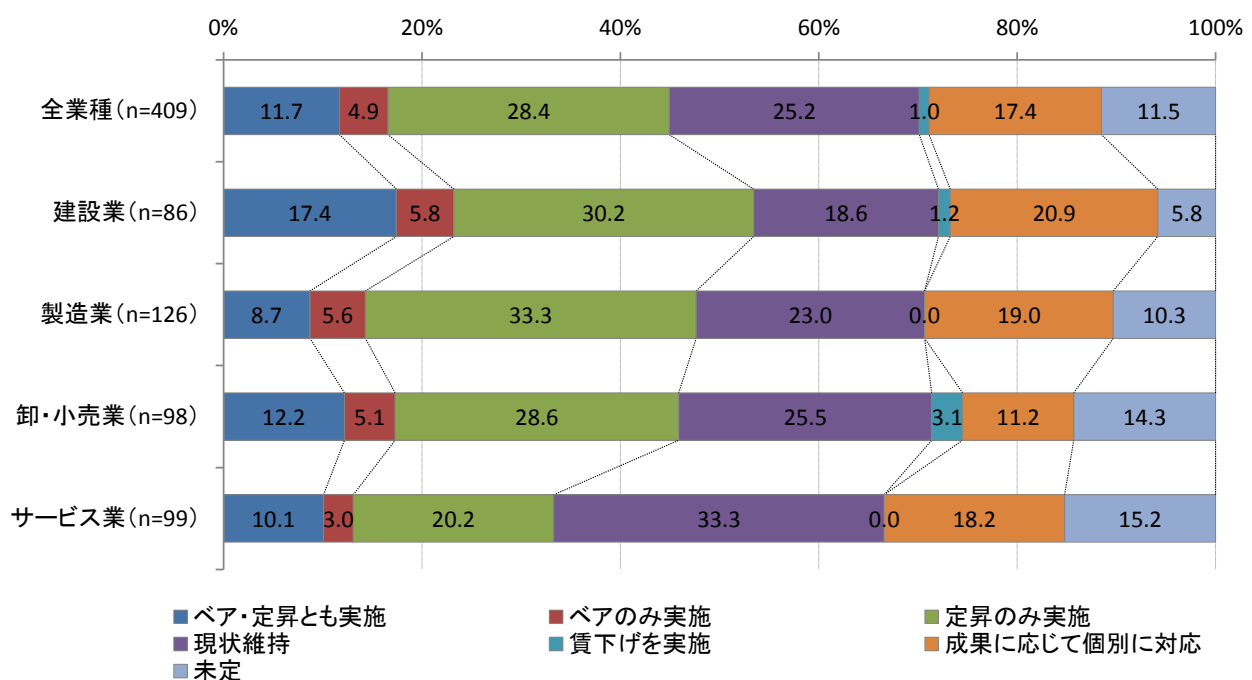
令和3年4月以降の賃金改定動向（ベースアップや定期昇給を実施する（した）か）を尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」＋「ベアのみ実施」＋「定昇のみ実施」）は、全業種で45.0%と前年に比べて4.8ポイント上昇し、4割台となった。

業種別にみると、賃上げを実施する（した）企業の割合は建設業で53.4%と他業種に比べて最も高く、以下は製造業（47.6%）、卸・小売業（45.9%）、サービス業（33.3%）の順となっている。

図表 30 全業種 賃金改定動向の推移



図表 31 業種別 賃金改定動向

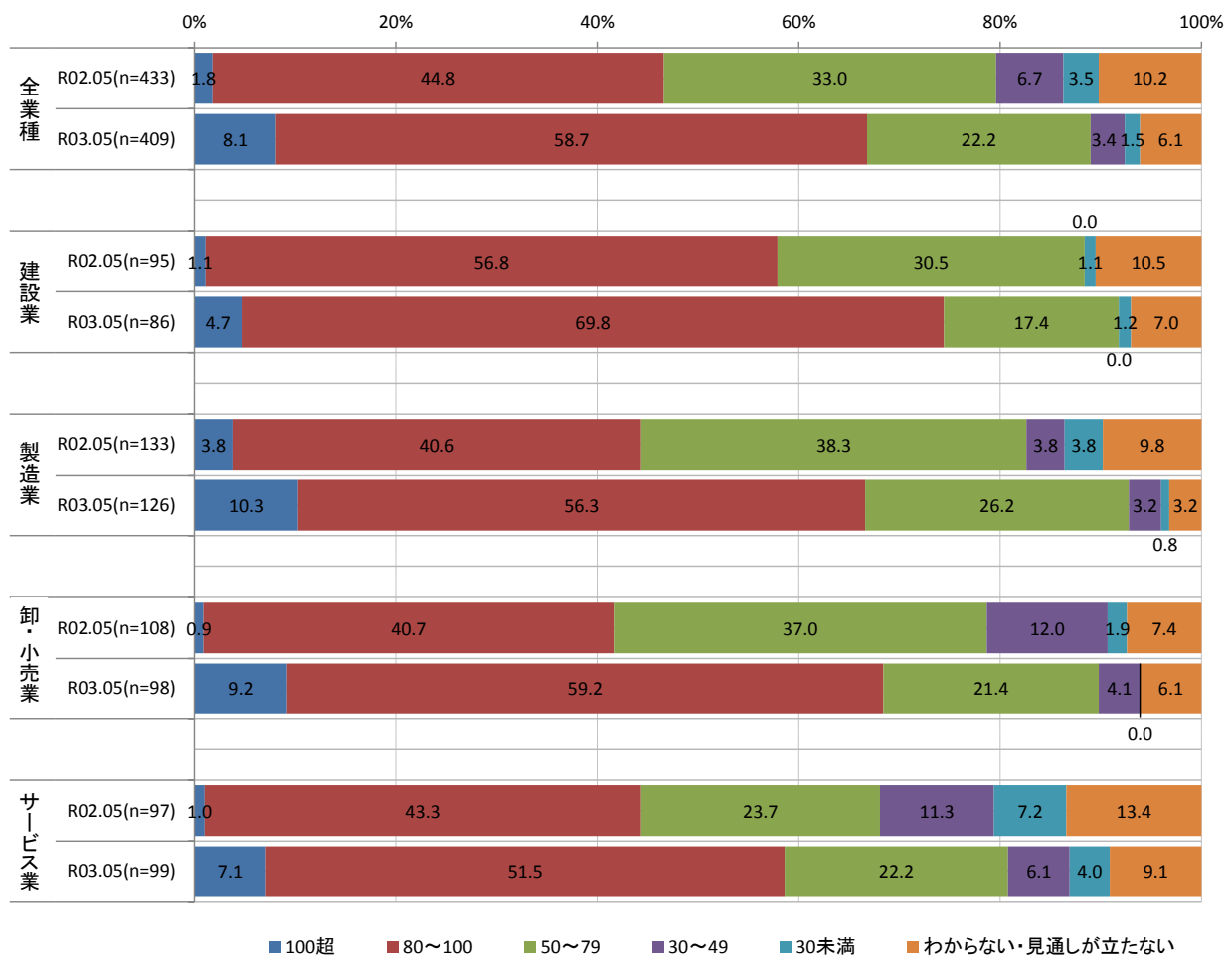


3. 新型コロナウイルス感染症の事業への影響について

新型コロナウイルス感染症の事業への影響について、事業活動全体における平常時（コロナ禍前）の経営状況を 100 とした場合の今年度の業績見通しをたずねたところ、全業種でみると「80～100」が 58.7%と最も多く、次いで「50～79」が 22.2%となっている。

業種別にみてもすべての業種で「80～100」が最も多くなっており、前年から上昇している。一方、サービス業では平常時の 5 割未満である（「30～49」+「30 未満」）との回答が 10.1%と他業種に比べて高い割合を示している。

図表 32 業種別 新型コロナウイルス感染症の事業への影響（平常時の経営状況＝100 とした場合）



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	22	35	44	53	154
村山北部	20	33	17	17	87
最 上	21	18	10	17	66
置 賜	23	27	25	12	87
庄内田川	29	37	29	28	123
庄内飽海	34	33	31	37	135
合 計	149	183	156	164	652

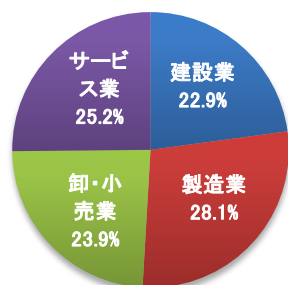
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	17	25	34	39	115
村山北部	12	22	11	8	53
最 上	14	12	7	7	40
置 賜	9	22	13	9	53
庄内田川	19	25	16	15	75
庄内飽海	15	20	17	21	73
合 計	86	126	98	99	409

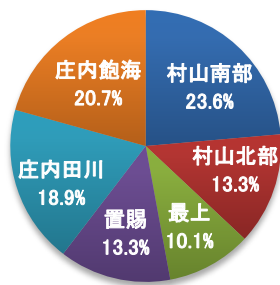
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	77.3	71.4	77.3	73.6	74.7
村山北部	60.0	66.7	64.7	47.1	60.9
最 上	66.7	66.7	70.0	41.2	60.6
置 賜	39.1	81.5	52.0	75.0	60.9
庄内田川	65.5	67.6	55.2	53.6	61.0
庄内飽海	44.1	60.6	54.8	56.8	54.1
合 計	57.7	68.9	62.8	60.4	62.7

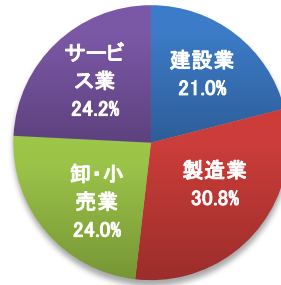
サンプル割合（業種別）



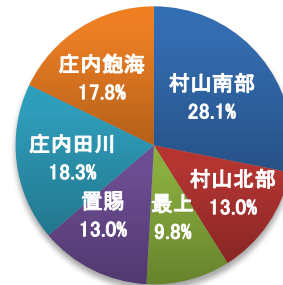
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 3 年 5 月 6 日(木)～17 日(月)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社 フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-2 1 荘銀山形ビル 8 F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : <https://www.fir.co.jp/>